

## 193台のアクセスポイントを導入し 学内をカバーするWi-Fiネットワークを構築 キャンパスライフでのノートPC活用を促進

### 別府大学 様

大分県別府市に本部キャンパスを構える別府大学では、ICTを活用した教育のさらなる推進を目指し、2015年度の新入生から一人一台のノートPCの保有および利用を方針として決定。加えて、学内のどこからでもネットワークへの接続を可能とするため、193台のWi-Fi(無線LAN)アクセスポイントを導入しました。学内全域をカバーするWi-Fi環境が整備されたことで、ノートPCの活用が浸透、学生の勉学に臨む態度や、キャンパスライフに大きな変化がもたらされています。



写真: 別府大学 西村靖史氏 (以下西村先生)、後藤善友氏 (以下、後藤先生)

取材協力: 株式会社 富士通エフサス

### 学生のノートPC利用を促進するため、 学内をカバーするWi-Fi環境を構築

別府大学は総合的な学園として、地域に貢献できる大学・学校を目指し、その将来を担う人材を育成してきました。

ICTを活用した教育にも力を入れており、学内外での学生のPC利用を促すため、2015年の新入生約300名を対象に一人一台のノートPCの所有と利用を定め、授業や自習でのさらなる積極的なPC活用を進めています。

このようなノートPCを用いた授業や自習、さらにキャンパスライフでの活用を促進していくにあたり、新学内ネットワークと同時に整備されたのが、校内のどこからでもネットワークにアクセス可能とするためのWi-Fi環境です。そして、その基盤を実現

するために選択されたのが、富士通エフサスが提案したバッファローのWi-Fi製品でした。

### 性能と価格のバランス、多彩な製品ラインナップを評価しバッファローを選択

本格的なWi-Fi環境の導入に向け、以前より学内ネットワークの構築とサポートを担ってきた富士通エフサスに提案を依頼。西村先生は、「学内を網羅しつつ、最低限のアクセスを保証するのに必要なWi-Fiアクセスポイント数を限られた予算内で導入できるよう、妥協点を探ってもらったのです」と振り返ります。加えて、アクセスポイント間を移動しても通信可能なローミング機能や、大規模導入に伴う運用管理負荷を抑制する仕組みも要件として掲げられました。

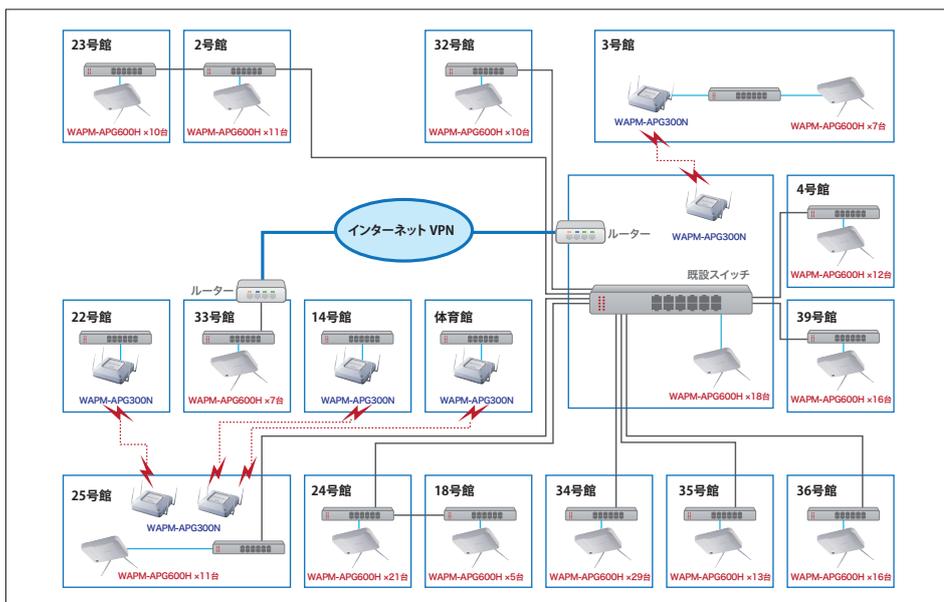
これらの要件を満たすものとして、提案されたのがバッファローのWi-Fi製品です。提案を担当した富士通エフサス クリエイティブリーダーの中村恵吾氏は、「要件を満たすにあたり、十分な機能を備えると同時に大規模展開に際してもコスト面で優位性を持っていたのが、バッファローのWi-Fi製品でした。加えて大規模運用時でも効率的な管理が可能なWi-Fi管理システム『BN-ADT』を有していたことも評価ポイントになりました」と説明します。

### 186台のWAPM-APG600Hで 校内のほぼ全域をWi-Fi化

今回のプロジェクトでは、最終的に186台の「WAPM-APG600H」が導入され、廊下や教室等に設置されたWi-Fiアクセスポイントにより、1台あたり15~20人程度の学生をカバーするWi-Fiネットワークが構築されました。最大300Mbps(規格値)の高速通信が可能であるほか、ローミング機能により、移動しながらでも途切れることのない快適な通信が実現されています。また、各Wi-Fiアクセスポイントと学内ネットワークの物理接続に加え、PoE給電機能を提供するために、インジェクター「BIJ-POE-1P/HG」も導入。これにより、電源周りの工事をはじめとした設置費用が抑制されています。このほか、建屋間通信の用途として、7台の「WAPM-APG300N」が導入されています。

### 電気や水道同様、当たり前のインフラとなったWi-Fi環境

2015年4月から本格的な運用が開始されたWi-Fi環境ですが、快適な通信が実現されており、現在では先生方や学生の日常にすっかり溶け込んでいます。後藤先生は、「電気や水道と同様に“利用できて当たり前のインフラ”といった感覚で使われています」と話します。また、西村先生も「ストレスをまったく感じる事の無い、スムーズなアクセスが実現できています」と評価します。



### 導入製品



法人様向け11n/a&11n/g/b 同時使用  
インテリジェントモデルWi-Fiアクセスポイント  
**WAPM-APG600H**

